兵庫県立人と自然の博物館 開館20周年記念シンポジウム

新たな博物館の役割と地域貢献

～次世代の博物館活動を描く～

“地域の担い手が活躍する舞台”をつくる博物館

ひとはくは、皆さまに育てられ
二十歳を迎えることができました

市民・県民・地域団体・NPO・教育機関・企業・行政等の方々
NPO法人人と自然の会をはじめ連携活動グループ・地域研究員の方々
そして、多くの博物館関係の方々

【兵庫県】　開館時期：貝原俊民前知事・展開時期：井戸敏三知事
【県立大学長】　姫路工業大学：山中千代衛元学長・白子忠男元学長・鈴木胖元学長
兵庫県立大学：熊谷信昭初代学長・清原正義学長
【歴代館長】　伊谷純一郎準備室長・加藤幹太初代館長・河合雅雄名誉館長

ひとはくは、多くの皆さまのご理解とご支援によって
博物館活動を積み重ねてきました。

これまでのありがとう、ここからのエールを

20th HITOHAKU

開館までの歩み　（-1990年）

20年のあゆみ 1992 ~2012

＜博物館設置の要望＞

1969 「**県立自然科学博物館設置**について」県議会に請願

1973 兵庫県自然保護協会から**環境保全・自然保護活動分野の博物館設置**について要望書提出

＜人間居住環境研究センターの必要性＞

1976 IFHP（国際住宅計画連合）兵庫国際会議が開催され**人間居住環境研究センター**の設置の必要性を確認

1989 兵庫県教育委員会に**自然系博物館（仮称）設置準備室**を設置
基本構想策定：**近藤典生氏(委員長、東京農業大学名誉教授)**

1990 準備室長に**伊谷純一郎氏**が就任

基礎から応用、計画まで **5研究部体制**

- 地球科学
- 系統分類
- 生態
- 生物資源
- 環境計画

萌芽期 1/2　（1990-2000年）

20年のあゆみ

1992 ~2012

1992　人と自然の博物館開館
初代館長に加藤幹太氏が就任

特徴①　博物館の8つの機能

- 展示
- 調査研究
- データバンク
- 学術交流
- 資料収集
- 普及教育
- ジーンバンク
- シンクタンク

特徴②　県立大学と博物館の兼務
大学教員制度の導入

兵庫県立大学
(姫路工業大学)

自然・環境
科学研究所

兵庫県立
人と自然の博物館
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo
http://hitohaku.jp

1990

萌芽期 2/2　（1990-2000年）

20年のあゆみ 1992 ~2012

1995　**阪神・淡路大震災復興支援**
（復旧・復興活動、まちづくり支援）

1995　**河合雅雄氏が館長に就任**

1998　**ボルネオジャングル 体験スクール開講、今年で14回目を実施**
（参加者が大学等の進路決定も）

1999　**NPO法人「人と自然の会」と協力協定を締結**
（県下の博物館関係では初のNPO)

1990

展開期 1/6　（2000-2005年）

1992 ~2012

20年のあゆみ

2001　**博物館の新展開を公表**　低迷していた集客、研究部体制改革など
ひとはくのさらなる展開の原動力に

生涯学習の支援

担い手の養成 → 知識の実践 → 県民ニーズに応えた学習の場の提供

学習成果の集積 ↓

自然・環境情報の一元管理 → 情報の活用 → 総合的なシンクタンク活動

より高度な人材育成 ↑

自然・環境に関するシンクタンク機能の充実

2000　2005

展開期 2/6　（2000-2005年）

20年のあゆみ

1992 ~2012

2002　**岩槻邦男が館長に就任**
（新展開の翌年から）

2002　**ひとはくキャラバン始動**
（地域で、地域の方々とコラボレーションで展開）

2003　**リサーチプロジェクト実施**
（自然や環境についての調査・研究を県民参画型で展開）

2004　**ひとはく地域研究員登録制度**
（地域の自然・環境・文化を未来へ継承する活動、パートナー）

2000

展開期 3/6　（2000-2005年）

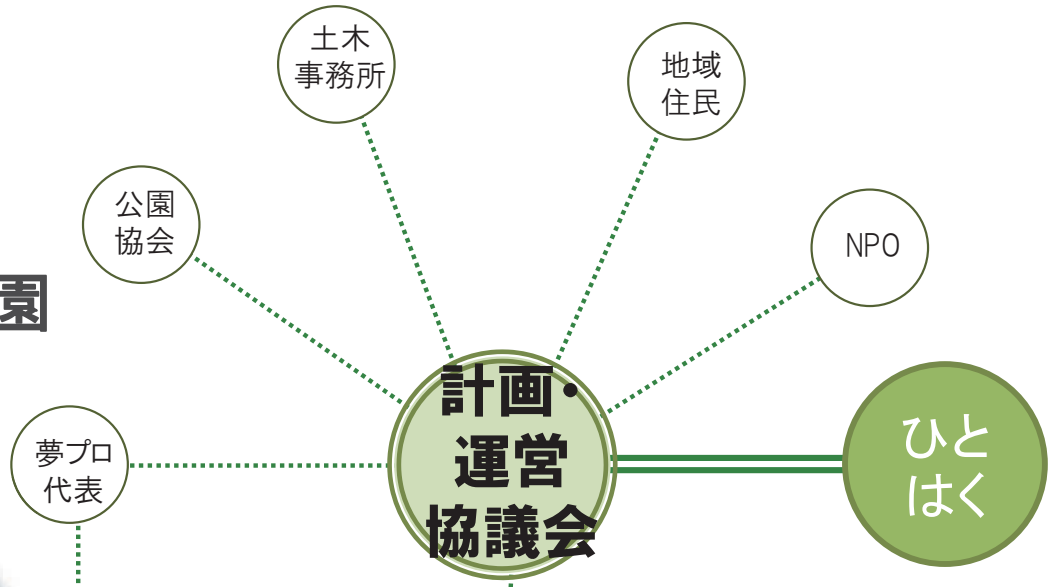
1992 ~2012

20年のあゆみ

◎特徴的な取り組み例の一つ

2000～　**兵庫県立有馬富士公園**
計画・運営協議会支援、
計画づくり・マネジメント支援

2000



展開期 4/6　（2005年-2012年）

20年のあゆみ 1992 ~2012

2005　第1回共生のひろば開催
(地域で活動する人たちの発表・交流の場)

2006　猪名川町と協力協定

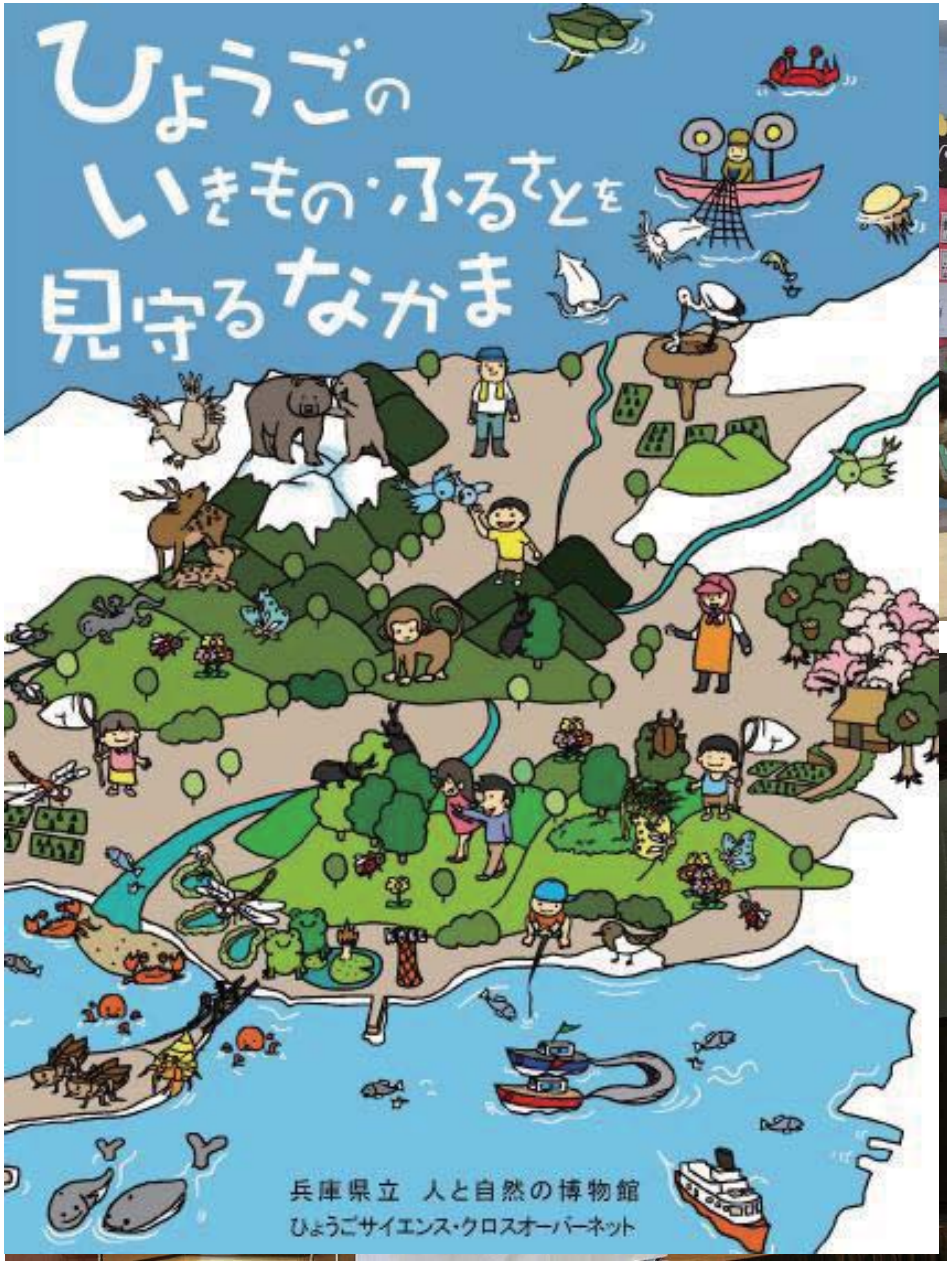
2007　ひょうご恐竜・哺乳類化石プロジェクト始動
(地元ボランティアの方々との協働)

2009　加東市との協力協定

2009　佐用町昆虫館と連携協定
(小規模博物館などと、23号台風の前日)

2010　「ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま」発行

2005



展開期 5/6　（2005年-2012年）

展開期 6/6　（2005年-2012年）

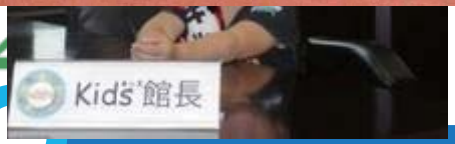
(塩水に浸かった標本の修復等)

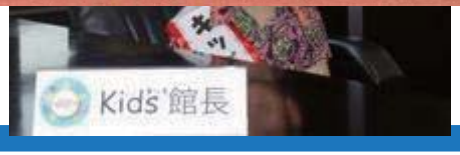
2011　**被災地支援キャラバン実施**

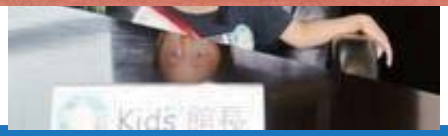
(昨年、今年と継続して)

2005

ひとはく二十歳 1/3　（2012年）







ひとはく二十歳 2/3　（2012年）

1992 ~2012

20年のあゆみ

20周年を記念して
これまでの活動をさらに推進するために

2012　**移動博物館車「ゆめはく」**
（地域へのアウトリーチのさらなる活性化）

2012　**「ひとはく多様性フロア**
～魅せる収蔵庫トライアル」
（多くの標本や資料の直接体験を通じて来館者への驚きや発見の促進・演示の試行的実践）

2005

ひとはく二十歳 3/3　（2012年）

1992 ~2012

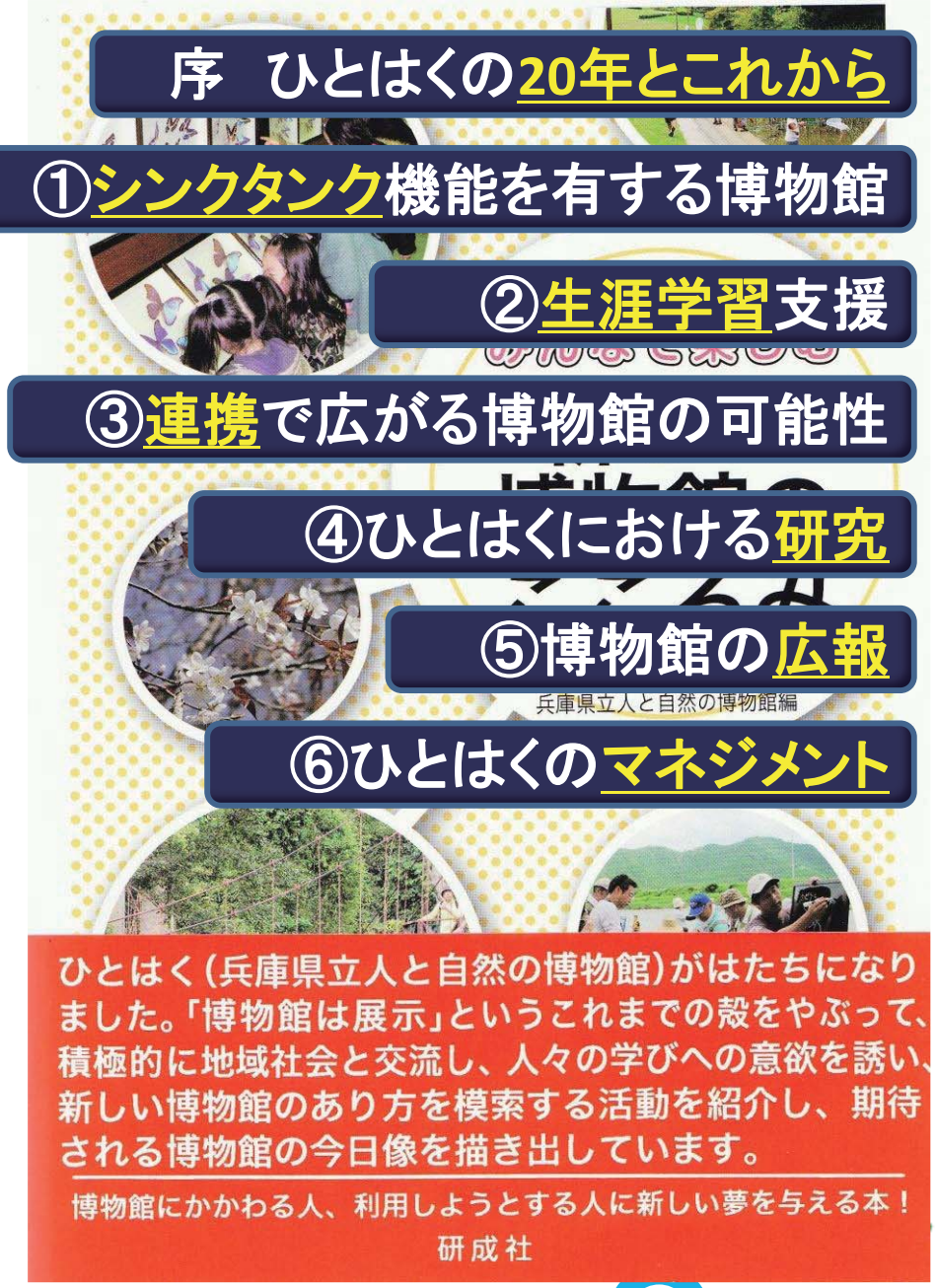
20年のあゆみ

2012 「新しい博物館のこころみ」（研成社）発刊
(2012年9月25日)

その「**はじめに**」で岩槻館長は
『兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）は、2012年秋に開館20周年を迎えます。ふつうの機関ですと、20年目は単なる通過点に過ぎません。ひとはくの場合は、しかし、時代に対応して、いくつかの新しい試みがとられました。その取り組みの成果が、日本の自然科学系の博物館のあり方にどういう実験結果を示せるか、データを公開し、議論の材料としてもらうこともその存在意義を確認することに通じると考え、20周年事業の取りまとめをしています。**本書はその一環として準備するものです。**』と記述されています。

2005

なお、**公式記録集**は
現在、とりまとめ中です。



基本構想・基本計画から「ひとはく将来ビジョン」へ

三浦 朱門委員長
元文化庁長官、作家

平成19年3月

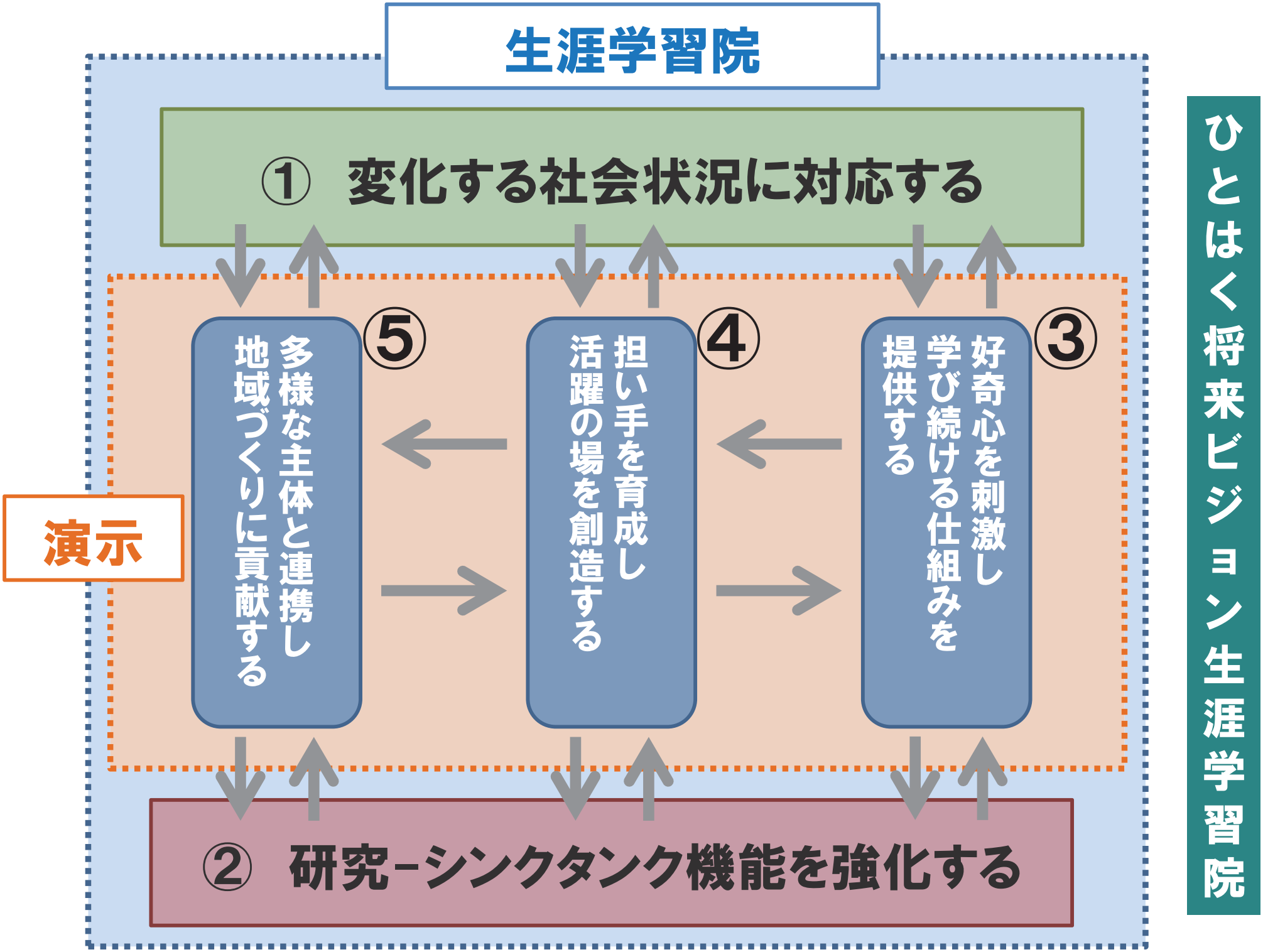
博物館と地域の未来を拓く

「ひとはく将来ビジョン」

平成25年3月

熊谷信昭委員長
前兵庫県立大学長

平成20年3月


生涯学習院
① 変化する社会状況に対応する
③
好奇心を刺激し
学び続ける仕組みを
提供する
④
担い手を育成し
活躍の場を創造する
⑤
多様な主体と連携し
地域づくりに貢献する
演示
② 研究−シンクタンク機能を強化する
ひとはく将来ビジョン生涯学習院

館内での「演示」による生涯学習院の実現イメージ

自ら学ぶ空間

学習進度によって分かれ、互いが見える実験室・研究室

来館者が自ら調べる・つくる

分かり合う空間

屋台での成果発表を他の来館者が楽しむ

来館者が自ら伝える

演示

何かになってみる体験

普段と違うコミュニケーション

日常では得られない学びの連鎖

■静的な展示から

(人が介在する)動的な演示へ

■来館者が演者になりきる

■細切れではなくプロセス全体を

■隠れていたバックヤードを

■できなかった大型標本を

驚きの交流空間

大空間での大型標本の化石組み立てキットと、それに面した一望できる実験室・研究室

無関心層の引き込み・実践活動のデモンストレーション

“地域の担い手が活躍する舞台”をさらに拡大するために
ボルネオ
ジャングル
体験スクール
ひとはく
関連
ネットワーク
企業・NPO・
関連団体
ひとはくと多様な主体との連携
多様な主体間のネットワーク
地域
研究員
地域
研究員
連携活動
グループ
兵 庫
フランス
アベロン県
との交流
日 本
多様なネットワークのひろがり
世 界

ひとはくは“地域の担い手が活躍する舞台”として
岩槻邦男館長のもと、これからも皆さまとの協働を通じて
博物館と地域の未来について
思索し、行動し、提言し続けていきます。

これまでのありがとう、ここからのエールを